

今回は、講師が過去に経験したシンプルなケースを材料に学びます。今回は、入口として、ケースに取り込む際の基本を学びます。

◆ホメオパスの使命・役割とは何でしょうか？

ご存知のように、ハーネマンは、「オルガノン §1~3」で述べています。

§1=病気の人の健康を再建すること

§2=素早く・穏やかに・永続的な治癒を目指す

§3=ホメオパスの役割 1. 病を知る。 2. レメディを知る。 3. 適用の仕方を知る。

◆CHKでお勧めしているケースへの取り組みかた

ケースを取って、レメディを考えて行く時「クライアントさんの何が癒されるべきか？（病の中心）」（オルガノン §3-1.）を理解することが大切です。

ケースを取ってからレメディ決定までのプロセスは、次の通りです。

「ケースへの取り組み方の基本」

1. まず、ケースを一読して、ケースの①印象を書き留める。
2. 再読して、クライアントの特徴的な点（症状）をピックアップする。
3. ピックアップした特徴的な点の全体を眺めてみる。
4. これらを元に、まずは、「前分析」を試みる。

①印象

②健康度（0~10）

③予後（良いレメディがある時／レメディがない時）は、どうなるか？

④救急性（急性か慢性か～救急性があれば、すぐにそこから始める）

⑤治癒を妨げているものの有無は？

⑥親和性（部位）

⑦マヤズム傾向（Psora Syphilis Cancer TB 等～またいつか勉強します）

⑧全体性（ケースでの乱れはどこにあり、レメディはいくつ必要になるか？）

⑨バイタリティー

5. 本分析＝「何が癒されるべきか？」（病の中心＝統合）をとらえる。

6. 「何が癒されるべきか？」から外れない症状を Rubrics として選び、Rep. する。

7. Rep. 表の候補レメディから、ベストレメディを選ぶ。

8. 最終的には、ポーションとドーズを決めて、クライアントに提案する。

さて、ケース学習では、この教室を出たら、決してその内容について話すことなく、守秘義務を守って下さい。

では、始めましょう。